

腎臓内科 ジュニアレジデントプログラム

1. 研修責任者：原田 幸児（腎臓内科副部長）
2. 研修期間：8週間，選択（内科系必修の一部，あるいは自由選択科目として）
3. 目標

【一般目標 GIO】

代表的な腎疾患の基礎知識を理解し，一般的な診療ができるようになると同時に適切に専門科に紹介できる能力を身に付ける。

【個別目標 SBOs】

- 1) 患者やその家族とのコミュニケーションが適切に取れる。
- 2) 患者の病歴を適切に聴取できる。
- 3) 腎疾患に関連する身体所見を適切にとることができる。
- 4) 検尿・尿沈渣の所見を自分で評価できる。
- 5) 腹部超音波検査で正確に解剖学的な腎臓の異常の評価ができる。
- 6) 慢性腎臓病（CKD）という疾患概念を説明できる。
- 7) 原発性・2次性に関わらず，糸球体腎炎の病態生理の理解した上で治療法を選択できる。
- 8) 腎生検の適応を述べることができる。
- 9) 急性腎不全の病態生理の理解した上で治療法を挙げられる。
- 10) 緊急透析の適応を理解し，適切な透析方法を選択できる。
- 11) 超音波ガイド下で、内頸静脈からダブルルーメンカテーテルを挿入できる。
- 12) 慢性腎不全の病態を理解し，適切な薬物療法や食事療法の処方ができる。
- 13) 包括的腎代替療法の意味を理解し，腎代替療法が必要になった患者に対

して、腎移植、腹膜透析、血液透析の3者について正確な説明ができる。

1 4) 看護師、臨床工学技師など、他の医療スタッフと連携して診療を行うことができる。

1 5) 積極的に学会に参加し、症例報告等の発表する。

4. 方略 LS

LS 1 (OJT)

- 1) 入院患者を担当医として受け持ち、指導医とともに診療にあたる。
- 2) 他科からの紹介患者を指導医とともに受け持つ。
- 3) 指導医とともに透析室の業務を行う。
- 4) 指導医の監督下で、透析用カテーテル（ダブルルーメンカテーテル）挿入や透析患者の動静脈瘻の穿刺を行う。
- 5) 腎生検、動静脈瘻形成術、腹膜透析カテーテル挿入術など手技の介助を行う。

LS 2 (勉強会・カンファレンス)

腎臓内科週間予定表

	午 前	午 後
月	病棟・透析室回診 (8:30-9:30) 午前入院患者カンファレンス (9:30-)	病棟・透析室 午後入院患者カンファレンス (16:00-17:00)
火	病棟・透析室回診 (8:30-9:30) 午前入院患者カンファレンス (9:30-)	病棟・透析室 午後入院患者カンファレンス (16:00-17:00)
水	病棟・透析室回診 (8:30-9:30) 午前入院患者カンファレンス (9:30-)	病棟・透析室 午後入院患者カンファレンス (16:00-17:00)
木	病棟・透析室回診 (8:30-9:00) 腎生検 (9:30-) 午前入院患者カンファレンス (腎生検終了後)	病棟・透析室 午後入院患者カンファレンス (16:00-17:00)
金	病棟・透析室回診 (8:30-9:30) 午前入院患者カンファレンス (9:30-)	病棟・透析室 午後入院患者カンファレンス (16:00-17:00)
土	病棟・透析室回診 (8:30-9:30) 午前入院患者カンファレンス (9:30-)	病棟・透析室 午後入院患者カンファレンス カンファレンス・レクチャー (15:00-17:00)

※週間予定表には記載されていないが、病理部の都合に合わせて、腎生検の病理所見を病理医とともに評価する時間も設ける。

LS 3 (その他)

- 1) 積極的に日本内科学会、日本腎臓学会、日本透析医学会、日本腹膜透析研究会、日本急性血液浄化学会等の関連学会で経験症例の症例報告 (学会発表) を行い、論文作成を行う。
- 2) 症例報告の機会に恵まれなくても、希望があれば上記の学会に参加し、最新の腎臓病学の知見を得る。

5. 評価 EV

- 1) 日々の回診・カンファレンスでスタッフが形成的評価を行う。
- 2) 日々のカルテ記載内容の評価をする。

- 3) 機会があれば、学会発表の際に行う予行会でプレゼンテーションの方法に対する評価をし、同時に知識の評価もする.